2019 年度（令和元年度）おきぎんふるさと振興基金事業報告書

「四肢形成不全や欠損、切断の子ども達を対象とした ランニングスクールの開催」

2021 年 3 月 25 日

琉球大学病院リハビリテーション部　神谷武志

1．背景

四肢の形成不全や欠損、切断を持つ子ども達や障がいを持つ子ども達の多くは、歩く、走る、両手を使うなどといった経験がないまま、成長する。このような障がいをもつ子ども達が、友達と同じことをしたり、体を動かしたりすることは決して簡単なことではない。我が国が 2014 年に批准した「障がい者の権利に関する条約」では、「障害のある子どもの発達しつつある能力の尊重、および障がいのある子どもがそのアイデンティティを保持する権利を尊重する」「障がいのある子どもも他の人と平等にレクリエーションやレジャー、スポーツといった文化的な生活に参加する権利を持つ」と謳われている。障がいを持つ子どもが自分の記録に挑戦し、達成することで自己肯定感が育成され、身体および精神の健全な成長と発育へと繋がる。また義手や義足といった補助具の情報を保護者や医療者に提供し、これを啓発活動をすることにより、障がいを持つ子ども達の活動が広がり、社会参加を促すことに繋がる。これらを支援する社会に近づけたいという理由により、本イベントの開催を企画するに至った。

2．目的

沖縄県内の四肢形成不全や欠損、切断また手足に障がいを持つ子ども達に運動や義手や義足の装着、体験する場を設け、子どもの社会活動を促すこと、身体を動かすことのすばらしさや挑戦する心を体感してもらうこと、また障害者スポーツの情報を提供し、パラリンピックを目指すアスリートの発掘や育成へと繋げることが目的である。

3．運営メンバー

大会長	神谷武志	琉球大学病院リハビリテーション部　副部長
実行委員長	村上（渡久知）かおり	琉球大学病院リハビリテーション部　作業療法士
実行委員	宮城朝雄	琉球大学整形外科学講座　技術職員
	浅見晴美	琉球大学病院リハビリテーション部　医師
	砂田宏典	(有)砂田義肢製作所　代表
	長嶺覚子	琉球大学病院リハビリテーション部　理学療法士

上地一幸	琉球大学病院リハビリテーション部　理学療法士
瑞慶山良太	琉球大学病院リハビリテーション部　理学療法士
知花由晃	琉球大学病院リハビリテーション部　理学療法士
小山和	琉球大学病院リハビリテーション部　理学療法士
森岡正人	琉球大学病院リハビリテーション部　作業療法士
安田知子	琉球リハビリテーション学院　教員
島袋公史	沖縄リハビリテーション福祉学院　教員
玉城和弥	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｸﾘﾆｯｸやまぐち　理学療法士
我如古修	名護療育医療センター　理学療法士
宮沢優紀	株式会社遊道　代表取締役

４．関連イベントの見学

A. おや子ひろば 2019

日時：2019 年 8 月 25 日(日)
会場：兵庫県立リハビリテーションセンター
対象：同センターに通院中の子どもやそのご家族
（主に義手利用者）
内容：ニジマス釣り、スーパーボールすくい、シャボン玉、バランスとんぼづくり、横断幕づくり、情報交換会

筋電義手の女児

B. PAFF meeting 思いっきり走ろう！ in 福井

日時：2019 年 11 月 24 日(日)
場所：福井県陸上競技場（9.98 スタジアム）室内練習場
対象：福井大学医学部附属病院や関連施設通院中の子どもやそのご家族
内容：体力測定、ランニングスクール、車いす競技、レーサー試乗
招聘パラアスリート：山本篤選手、岸澤宏樹選手

イベントの様子

５．　運営会議（計 12 回の会議を実施）

主な議題：申込フォームの作成、イベント案内ポスターの作成・印刷、大会ロゴの作成、イベント内容（体力測定、ランニング指導、車いすスポーツ体験、義手・義足の体験）、運営マニュアル・体力測定マニュアルの作成、緊急時の医療体制の構築、義肢の借用、対象児・関係者へ案内、新型コロナウイルス感染予防対策、オリジナル T シャツ作成

イベントロゴ（デザイン　具志堅ひかる　一色万紀子）

新型コロナウイルス感染拡大のため延期

イベント開催ポスター

6．　広報活動

沖縄県内全市町村の社会福祉協議会、沖縄県更生相談所、沖縄県内の療育医療センター（南部、中部、名護）、沖縄県内の療法士養成校（沖縄リハビリテーション福祉学院、琉球リハビリテーション学院）、沖縄トヨタ、琉球ダイハツ、A&W、スポーツ DEPO、豊見城市民体育館、豊見城市役所、沖縄銀行（デジタルサルネイジ）、沖縄県整形外科医学会、沖縄県リハビリテーション医学会（メール発信）

7．　イベント開催

日時：2020 年 11 月 28 日(土曜日)　14:00～16:45
場所：環境の杜ふれあい(島尻郡南風原町新川 588)
主催：琉球大学病院　リハビリテーション部
共催：一般社団法人　ハビリスジャパン

協力：（有）砂田義肢製作所　(株)オットーボックジャパン
後援：東京大学スポーツ先端科学研究拠点
対象者：手足に欠損や障害がある子どもたち
参加人数：総勢 74 名（参加者 53 名、運営スタッフ 21 名）
参加者
16 家族：対象児童 17 名＋兄弟 5 名　保護者：31 名
運営スタッフ（東大スタッフは ZOOM 参加)
(有)砂田義肢製作所、琉球リハビリテーション学院、沖縄リハビリテーション福祉学院、名護療育医療センター、リハビリクリニックやまぐち、(株)遊動 Chief Grow Path Adviser、オットーボック・ジャパン(株)、東京大学医学部附属病院リハビリテーション部、一般社団法人 ハビリスジャパン、琉球大学病院整形外科学、看護部　※順不動

招聘パラアスリート

上与那原寛和（沖縄市出身、北京・ロンドン・リオ 3 大会出場、車いす陸上）
※新型コロナウイルス感染流行のため下記 2 選手は不参加
・仲里進　（浦添市出身、アテネ・北京・ロンドン・リオ 4 大会出場、車いすラグビー）
・山本篤　（静岡県出身、北京・ロンドン・リオ 3 大会出場、左大腿義足、走り幅跳び）

実施内容

A. 体力測定（身長・体重、腹囲、握力、15m 走）

※長座体前屈、プッシュ UP、25m走、立ち幅跳び・スラローム、両足連続跳び越し、ボールキャッチは新型コロナウイルス感染拡大のため実施せず

B. 車いすスポーツ体験（レーサー乗車体験、車いすラグビー体験）

C. 筋電義手、義足（スポーツ用）でのランニングスクール

イベントの様子

8．　障がい者スポーツの紹介

競技の紹介スライド（琉球リハビリテーション学院の授業の一環）

車いすラグビー　　車いすバスケット

9．　今後の展望

手足の欠損、麻痺性疾患、骨系統疾患、重度の障がいを持つ子ども達に対して、身体を動かすことを通して社会活動を促すとともに、自立心、挑戦する心、自己肯定感を高めることを目標とし、この活動を継続していく。その一環として、障がい者スポーツの普及に取り組み、県内で活躍するパラアスリートの紹介、県内の障がい者スポーツチームの紹介・交流などを行い、将来のパラアスリートの発掘や育成へと繋げたい。それに加え、障がい児のメタボリック対策や二次障がいに対する予防医療への貢献、さらに高齢者を含めた地域医療の活性化にも寄与したいと考えている。

上肢欠損に対する義手の普及に関しては、沖縄県内での処方件数の増加やリハビリテーションの実施可能な体制を構築するよう、さらに情報を発信していきたい。当面は兵庫県立総合リハビリテーションセンターが行っている小児義手バンクへの参加により、義手のスムーズな提供を図っていきたい。運動用義手はハビリスジャパンの無料貸与システムを利用し、マット運動や鉄棒といった学校体育への参加も促していきたい。

このようなイベントから障がいを持つ子ども達のリアルなニーズを知り、分析し、課題を見つけ、今後の活動に活かし、障がいに対する理解、可能性を広げるための活動に精通した人材育成を行うことも必要と考えており、今後取り組んでいきたい。

１０．謝辞

今回のイベントを開催するにあたり、「2019 年度おきぎんふるさと振興基金」のご支援をいただきましたことを心より感謝を申し上げます。多方面での活動ができ、今後の発展につなげることができました。関係者一同、心より感謝を申し上げます。